

教育長定例記者会見 会見録

日時:平成30年10月5日 16時00分～

場所:教育委員室

発表項目

- ・「協働パートナーズ」による人材育成会議（発表）
- ・平成30年度三重県高等学校科学オリンピック大会（発表）

質疑事項

- ・発表項目について
- ・主権者教育のあり方

発表項目

（教育長）2件発表いたします。10月17日10時から、三重県立四日市工業高等学校ものづくり創造専攻科の生徒の学習を支援する企業、団体、行政等で組織する「協働パートナーズ」による人材育成会議を四日市工業高校で行います。「協働パートナーズ」は、先端技術や産業の動向等の知識を有する企業等と四日市工業高校ものづくり創造専攻科が連携し、生徒が、地方創生につながる三重の地域産業を担う技術者となれるように、国内外でのインターンシップの受け入れや、専攻科の授業への講師派遣などの活動を行っています。

その活動のひとつとして、専攻科での学習内容等を協議するための人材育成会議を、今回、初めて開催することになりました。ものづくり創造専攻科では、これまで「協働パートナーズ」の8事業所と連携し、実習や研修など様々な活動を実施しております。各企業の特徴や得意分野を生徒が身を持って知る内容としていただいております。生徒からは、「このような企業に就職したい」、「様々な現場を体験できた」、「学校での学習を積み重ねたことで、企業の人との質疑や議論に積極的に参加できるようになった」といった声も聞かれていますので、「協働パートナーズ」と連携した取組の効果があつたかなと実感しているところです。今回の人材育成会議では、ものづくり創造専攻科がこれまでに「協働パートナーズ」と協力して「総合実習」で取り組んできた企業研修とか社会人講師による授業等を踏まえ、これから取り組む企業研修や大学でいう卒業論文や卒業研究にあたる「修了研究」、社会人講師による授業など、ものづくり創造専攻科のより具体的な教育活動について、協議をしていただこうと思っています。「協働パートナーズ」での研修は、いずれも短期の体験的な内容でしたが、2年生では長期の企業研修を予定しています。そのため、研修を通じて身につける知識・技術や、それを育成するために必要な研修内容についての意見をいただき、研修前と研修後に学校で身に付けるべきこと、企業研修で学ぶことを明確にしたいと考えています。2年生で行う「修了研究」については、企業と共同した、より実践的な研究としたいと考えておりますので、これから研究テーマの設定の方法や指導体制の構築などについても意見をいただきたいと考えています。

2つめです。30年度の三重県高等学校科学オリンピック大会についてです。10月21日に、鈴鹿医療科学大学 千代崎キャンパスにおいて「平成30年度三重県高等学校科学オリンピック大会」を開催します。本大会は、生活に関連した科学の課題に取り組むことで、高校生の数学・理科や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等を育成し、科学的、数学的能力の向上を図ることを目的に開催いたします。8回目となる本大会は、学校数・チーム数・人数ともに過去最大の参加数となりました。また、女子生徒も積極的に参加してきており、全参加数122名のうち32名が女子生徒であります。参加チームのなかには8名のメンバーのうち5名が女子生徒という学校もあります。

優勝チームは、来年3月に埼玉県で開催される第8回科学の甲子園全国大会に三重県代表として出場します。競技内容は、筆記競技と実技競技に分かれます。筆記競技は、各チームの6人の生徒が物理、化学、生物、地学、数学、情報の各分野の問題に取り組みます。実技競技は、各チームの3人の生徒が、授業での学習を基本とした内容を題材に、物理・化学・生物・地学の各分野の実験を行う問題に取り組みます。出題の一例として、過去の全国大会の出題では、恐竜の足跡のレプリカから恐竜の歩行速度を予想させる問題などが出題されています。昨年度の県大会の実技競技では、1本の針金を使い、長く回り続ける独楽を短時間で製作し、独楽の回転時間の長さを競うコンテストを行いました。参加校それぞれ趣向を凝らした独楽を作成し、長く回転させるための緊張感と、達成した時の歓喜に満ちていました。昨年度の甲子園全国大会では、過去に全国大会の優勝経験がある伊勢高校が三重県代表として出場し、女子生徒3名以上を含むチームの中の最優秀校として帝人賞を受賞しています。また、昨日知事表敬を河村菜々子さんがされておりますが、彼女は第12回国際地学オリンピック・タイ大会に日本代表として出場し、銀メダルを受賞したということだったんですけれども、昨年度の大会に高田高校のチームの代表として出場していただいております。参加する生徒には、本大会の出場を通じて、同年代の仲間たちと競い合っ、ふれあいながら、科学への興味や友情を深めるとともに、世界で活躍する科学技術系人材となるきっかけとしていただきたいと思います。筆記競技は非公開としておりますが、実技競技は関係者や報道機関の皆様には公開としておりますので、ぜひ取材していただきたいと思います。

発表項目に関する質疑

○「協働パートナーズ」による人材育成会議（発表）

（質）「協働パートナーズ」ですが、これはいつから始まったんですか。

（答）実際にはこの4月からですね。4月からスタートしております。どんどんパートナーズというのは企業が増えてほしいので、発足は4月ですけども、今も増え続けているというのが実態です。

（質）学校としては四日市工業だけですか。

（答）ものづくり専攻科のために、ここでどんな人材を作っていったら良いか、その人材を企業でどういうふう採用していけば良いみたいな話になりますので、四日市工業高校のものづくり創造専攻科で「協働パートナーズ」ということにしております。

○平成30年度三重県高等学校科学オリンピック大会（発表）

（質）オリンピック大会ですが、参加校はどのようにして選ばれているんですか。

（答 高校教育課）参加校は県内の学校、私学、高専も含めて参加案内を出して、それぞれの学校から参加していただいたという形になります。

（答）応募ですね。

（答 高校教育課）はい。応募です。

○「協働パートナーズ」による人材育成会議（発表）

（質）人材育成会議ですけども、各企業なりからどれくらいの立場の方々がみえるんですか。

（答）企業は人事の担当者もいれば、小さい企業ですと社長という方もみえたりいろいろです。

（質）主に人事に携わっている方ということですね。

（答）そうですね。本当に北勢地域でどんな人材を創造専攻科で育ててもらったら良いかという真剣な話が出てくると思いますので、人事担当の方が多いのではないかなと考えています。

（質）細かいですけど、長期企業研修ってありますけど、長期ってだいたいどんなものですか。

（答 高校教育課）イメージ的には授業が前期、後期の二期制になっていますので、半期間を通して、毎週金曜日は企業で実習するというようなものです。

（答）デュアルシステムみたいな感じですか。

（答 高校教育課）そうです。

○平成30年度三重県高等学校科学オリンピック大会（発表）

（質）科学オリンピックのチームの人数って何人？

（答）8人以内です。

その他の項目に関する質疑

○主権者教育のあり方

（質）県議会の方で、芳野議員の件は正式な議会の行事ではないけど、廣耕太郎さんの件で、県議会がやってきた出前講座の件で、不規則発言があったと本人は謝罪してましたけど、高校現場で、今回の桑名西高校で、授業模様をCD-ROMに落とし込んでいるらしいんですけど、教育長はそれをご覧になったんですか。

（答）その落とし込んだという物を、私自身は見えていません。

（質）それはなんで。

（答）すみません。早く検証しないといけないんですけども、今の段階では見ていないというのが事実です。

（答 高校教育課）学校からは、当日の様子は聞いていまして、中の様子は把握している。

（質）様子を把握するのと、CD-ROMを見るのとは全然わけが違う。県議会も今それでそのCD-ROMを、特に自民党県議団は見ようとしているわけだから、学校現場から

待ったがかかっているらしいけど。それは、何らかの形で教育委員会は制御をかけたのか。CD-ROMを渡してはくれたけど、生徒の声とかも入っているし、映像がそのまま出ているじゃないですか。だからある程度、何らかの処置をしてからでないとか、報道には公表してくれるとか、学校が条件を付けているらしいんだけど。

(答 高校教育課) 報道にどうということは伺ってなかったもので、申し訳ないんですけども。

(答) すみません。同じ教育委員会と学校の中で、意思疎通がうまくいってなくて申し訳ないんですけども、早急に学校に確認します。

(質) 確認できたら、映像まで見せてくれとは言わないけど、少なくとも会議録を、県議員だけじゃなくて、ああいう形で公の議会の委員会で明らかになったわけだから、会議録だけでもいいから、少なくとも出すとか、何らかの形でしていただけたらと思います。

(答) 準備不足というか、自分の勉強不足もあったんですけど、確認をさせていただいて、また連絡させていただきます。

(質) 今回の件で、出前講座が19年からやっているから、約11年経って定着してるじゃないですか。今後のことについて、現場の高校から「県議会のこういうのは、できれば騒動に巻き込まれたくないんで断りたい」とかそういう声はあがってないんですか。

(答) そういう声は聞いていません。やはり主権者教育というのは、これから社会で生きていくために教育として必要なことなので、両論を学びながらやっていくのは必要なことですし、学校現場からそういった声というのはまったく聞いていないのは事実です。

(質) ただ、主権者教育というところで、もともと出前講座そのものが不偏不党で、一つの考えに偏るなということによって制御されてきたわけですよね。今回、そこから逸脱しているの、こういう問題が起きることに対して、県教委は議会等にある程度、話をするのか。常任委員会等に出てくるのかもしれないですけど。

(答) 出前講座自体が県議会の主催ですので、私からは、実際に出前講座については、両論、きちっと話をするということのは書いてあるにもかかわらず、このようなことになったというのは、ちょっとまずいことだと思いますので、事務局の方とは、そういう話はしております。

(質) 事務局って議会事務局。

(答) 議会事務局長から私の方へこのような事実があったと話がありましたので、それは、教育委員会どうこうというわけではないですが、議会の要項に書いてあるとおりにしてもらわないと、いけないという言い方はしなかったですけど、それは、という言い方はさせていただきます。

(質) 今回は、廣議員の件を受けて、各学校に向けてそういう講演をされる場合は、最後は公平な発言を求めるとか、学校に何か求めるとか、お願いするようなことはありますか。

(答) 今回の出前講座は、議会の主催ですので、学校側からそういうことがあったら注意してねということではないので、議会と相談しますが、うちから学校へ「そういう時は注意下さい」ということはしません。もう一つ前の芳野議員の件の時については、すぐさま学校に連絡して徹底させたというのは事実ですけども、今回の廣議員の件について

は、議会の主催事業ということで、このことによって、私から学校へというのは、まったくやっておりません。

(質) 現場では、先生が「議員さんの言葉にだまされないように」というフォローをされたというようなことも。

(答) それは、私は聞いていません。

(答 高校教育課) そういう話だけを捉えるんじゃないくて、県議会の方でも、定数のことについては、賛成・反対両方の意見があるので、その両方の意見を踏まえたいうえで、生徒たちが議員定数については考えるようにということを、進行していた教員が、生徒には話をしたということでございます。

(質) 出前講座の現場で。

(答 高校教育課) そうです。

(質) それは、廣議員の発言の後でということですか。

(答) それは、出前講座の場じゃなくて、終わった後でか、きちっと答えて。

(答 高校教育課) 出前講座の終了する時に、その話をして出前講座をまとめたということです。

(質) もう一回、先生の発言要旨を言っていていいですか。

(答 高校教育課) 県議の発言はあったけども、議員定数について両方の意見があるので、その両方の意見をしっかり踏まえて、生徒たちはこのことについて判断してほしい、という意味の内容です。

(質) それに対して、廣議員はどんな態度だったか。

(答 高校教育課) そこは分かりません。

(質) それは出前講座の担当の先生。

(答 高校教育課) 主権者教育として出前講座を企画された担当の先生ということです。

(質) なぜ、終了時にそういう発言をされたかという理由までは聞かれていませんか。

(答 高校教育課) 具体的に教員からは聞いていませんが、質疑応答で廣議員がそう仰った後、すぐさま、その場のまとめということで、話をされたと聞いています。

(以上) 16時18分 終了